

荒川流域を中心とする埼玉県内における 自然地名からみた災害常習地に関する気候的研究 (第1報) 埼玉県内の気候地名の分布

丸本美紀* 福岡義隆**

キーワード：荒川流域、気候地名、気象災害

1. はじめに

スマトラ地震の際、先祖からの言い伝えを守って難を逃れたことが昨日新聞報道で明らかにされた。種々の自然災害に対する予知や防災の知識が諺や地名などの形で残され、時と場所により生かされていることが少なくない。

荒川など多数の川が流れている埼玉県にも多くの自然地名が存在している。たとえば「上尾」は「アゲはアゲタで荒川から取水した田、オは川尻・川口のこと(日本地名基礎辞典)」や「吹上」は「この地名は全国に散見され、清少納言も『枕草子』で「浜は吹上浜」としている。吹上の語意は、風で砂が吹き上げられる所をさす。海岸や川岸などに多いが、山間部の麓にも吹き上げられる所はしばしば見られる。当地も、元荒川べりの風が吹き上がる場所である。」などがある。

本研究では河川流域に分布する自然地名(気候地名、水文地名、植物地名、地形地名)の分布や特殊な伝承・諺などの分布を調査し、それらの今日的意義、例えばハザードマップ作成とか日常的防災意識の高揚に生かす上でのヒントを検索するのが目的である。本報(第1報)では荒川流域における主に気候に関する自然地名の分布を調べる。

2. 研究方法

2万5千分の1の地形図(埼玉県・東京都の一部計40枚)を用い、「気候地名集成」(吉野, 2001)などを参考にして、荒川流域についての気候に関連する地名(例えば「日」「雨」「風」「影」の付く地名や「雨乞い」「雷害」に関わる地名)を判読し、それを以下の4つに分類した。

日照日射地名(「日」「旭」「陰」「影」など日照日

射に関すると思われる地名)

風地名(「風」「凧」など風に関連すると思われる地名)

雨地名(「雨」「湿気」や「竜」「龍」など雨に関連すると思われる地名)

その他の気候地名(「霞」「雷」「雲」などがつく地名)

また雨乞い祭りなどの伝承の分布・諺も調査し、埼玉県を中心に荒川流域とその周辺に焦点を絞って気候災害・水文災害・地形災害などのハザードマップとの関係性を考察するための文献的調査も試みた。

対象地域を荒川流域としているが、荒川は昔から氾濫を繰り返していたため、江戸時代に大規模な治水工事が行われ、現在荒川と呼ばれている川は元荒川放水路と呼ばれていたものである。地名は古くからの地形を反映してつけられたと考えられるので、ここでは埼玉県全域と東京都内の一部を対象地域とした。

3. 研究結果

3-1 日射日照に関する地名

これらの地名は災害とは直接結びつかないが、埼玉県内ではこの日射日照に関する地名が最も多い。

以下は埼玉県内における日射日照地名の一覧と分布図であるが、「日」などの付く日向地名が61ヶ所と圧倒的に多く、県内全域に広く分布している。これは、埼玉県には海がなく、内陸気候なので日射(日向)地名が多いというが(吉野, 2001)、実際そのとおりの分布になっている。

また「影(陰)」のつく地名は15ヶ所と日向地名に比べると少ない。これは日向地名は日が多く当たる明るい土地というプラスのイメージがあり、多くの場所で地名

* 立正大学大学院地球環境科学研究科オープンリサーチセンター研究補助員

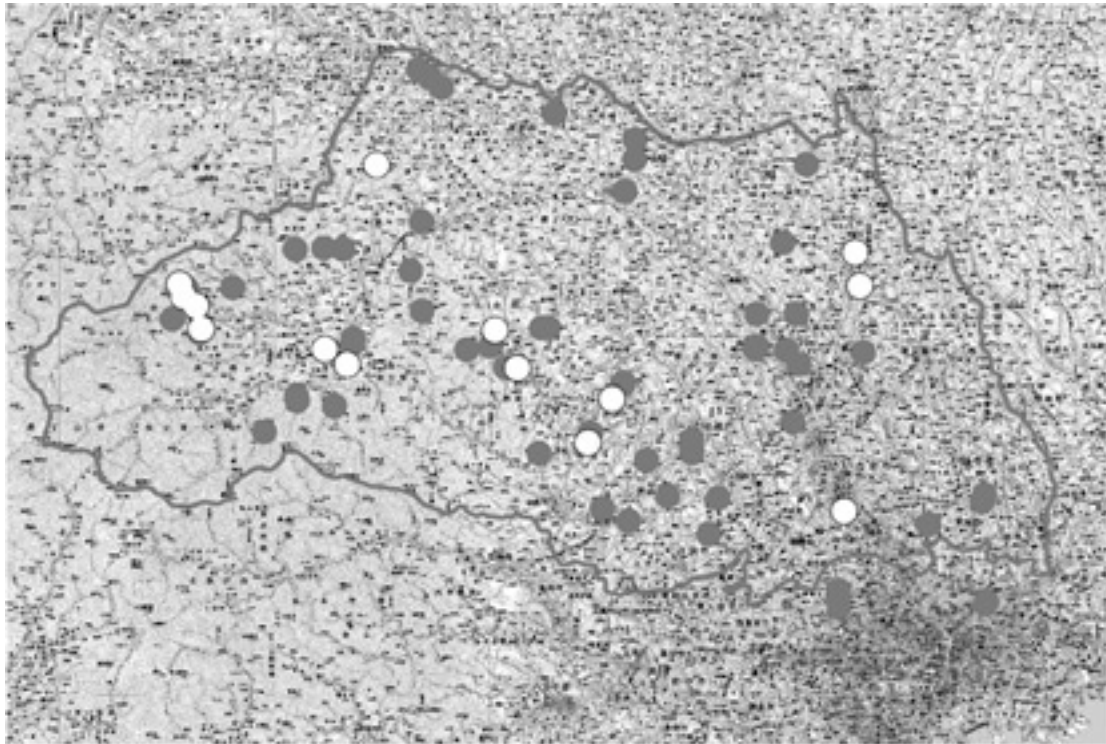
** 立正大学地球環境科学部

表1 日照・日射地名

日射地名	市町村名	地 図 名
日出安	騎西町	加須
小日洋（こひなだ）	蓮田市	鴻巣
日進町	さいたま市北区	上尾
旭（町）	大井町、川越市、草加市、深谷市、秩父市、練馬区	与野、川越南部、越谷、深谷、秩父、赤羽
朝日野	川越市	川越南部
日東町	川越市	川越南部
朝日（町）	川口市、桶川市、北本市、本庄市	草加、赤羽、上尾、鴻巣、本庄
日の出（日野出）	上尾市、本庄市、蓮田市	上尾、本庄、岩槻
下日出谷	桶川市	上尾、鴻巣
上日出谷	桶川市	鴻巣
旭ヶ丘	日高市	飯能
日向	日高市、妻沼町、玉川村、秩父市、皆野町、小鹿野町、両神村、越生町	飯能、妻沼、武蔵小川、秩父、安戸、長又、越生
日向島	熊谷市	妻沼
曙町	熊谷市	熊谷
日比田	所沢市	志木
日の（ノ）出町	坂戸市、足立区	川越北部、東京首部
花影町	坂戸市	川越北部
蒲生旭町	越谷市	越谷
日野原	玉川村	武蔵小川
日尺	都機川村	安戸
日向根	都機川村	正丸峠
照若町	本庄市	本庄
日山	寄居町	寄居
朝日根	東秩父村	安戸
日野田	秩父市	秩父
日野	皆野町	皆野
上日野沢	皆野町	皆野、鬼石
下日野沢	皆野町	皆野
日尾	小鹿野町	長又
日向沢	小鹿野町	長又
日野	荒川村	秩父
下日野	荒川村	秩父
日向大谷	両神村	長又
大日向	大滝村	雲取山
旭台	狭山市	川越南部
旭野	狭山市	川越南部
向陽台	入間市	川越南部
春日町	入間市、練馬区	川越南部、赤羽
日野出新田	羽生市	加須
光が丘	練馬区	赤羽
千住旭町	足立区	東京首部
千住曙町	足立区	東京首部

表2 日影地名

日陰地名	市町村名	地 図 名
下陰	鷲宮町	栗橋
下影	久喜市	久喜
沼影	さいたま市南区	浦和
女影新田	日高市	飯能
女影	日高市	飯能
花影町	坂戸市	川越北部
日影 (陰)	玉川村、児玉町、小鹿野町、両神村、越生町	武蔵小川、鬼石、長又、越生
下影森	秩父市	秩父
上影森	秩父市	秩父
間日影	小鹿野町	長又
日影沢	小鹿野町	長又



● : 日向地名 ○ : 日影地名

図1 日照・日射地名の分布図

として使用されたが、「影 (陰)」とつく日光があまり当たらず湿気が多くじめじめとした土地というマイナスイメージがあるため、あえて地名に使用しなかったと考えられている (『熊谷の地名と旧跡』)。

個々の地名を見てみると、「上日野沢」という地域には、平安期のものと推定される鐘掛城址、雨乞城址、および鐘掛城に付属する大手門跡がある。雨乞城址がある

ということは、雨の降らない日照の多い地名と推測できるが、しかし、元禄年間に上・下に分かれる前の日野沢村の地名は「山間谷間の村で日の入りが早いために、日入能沢 (ひのいりよきさわ) と称えたものが略されて日野沢になった」という話もある。

「日尾」の地名の由来は、日のさす尾という意味で、日照状況を反映した地名であるという。

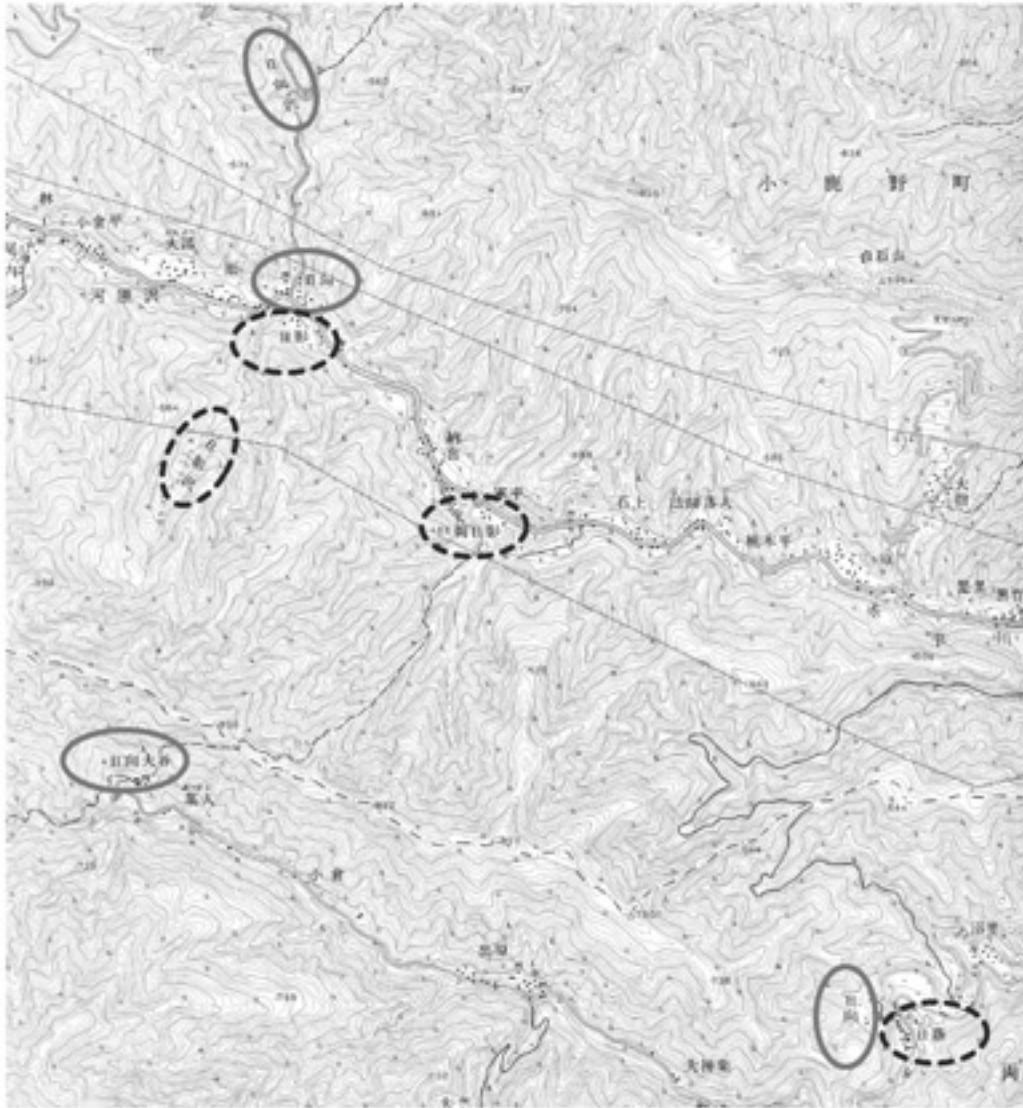


図2 両神村と小鹿野町の日向日陰地名

「日向沢」も南向斜面であるため日当たりが良いのに由来した地名であり、反対に「日影沢」は北向き斜面であるため日影になることに由来するとされている。

玉川村の「日影」は四面が山に囲まれていることになむと言われている。また、他の日影地名も同じような意味から地名を付けたものと推測される。

「影森」は「武甲の大山を東南にうけし村なれば、山の影なる森と云名義」(新編武蔵)つまり、「武甲山の山影の森の村」という意味がある(『日本地名大辞典11埼玉県』)。

この日照・日射地名の表を見ると同じ地名が複数の所に存在するものがある。特に「日向」が8ヶ所、「旭」が6ヶ所、「日影(陰)」が5ヶ所と同じ地名が埼玉県内に複数存在している。

また、「日向」と「日陰(影)」地名は対になって存在

している所が多い。次図は両神村と小鹿野町の2万5千分の1の地図の一部であるが、この狭い範囲内に「日向(沢)」と「日陰(影)(沢)」が対に存在している所が3ヶ所ずつと「間日影」「日向大谷」という地名を合わせると8ヶ所もの日照日射地名が密集している大変興味深い地域である。

3-2 降水に関する地名

荒川流域内における雨地名の分布は13カ所と意外に少ない。

雨地名としているが、雨が多いと思われる地名と雨が少いため雨乞い神事から取ったと思われる地名の2つに分かれる。

平野部に「雨沼」「湿気」などの地名があり、山梨県との県境あたりの秩父山地に「飛龍山」「竜喰山」など

表3 雨地名

雨地名	市町村名	地図名
湿気	蓮田市	久喜
雨沼	上尾市	上尾
上サ(かさ)	都機川村	正丸峠
カサ	小川町	武蔵小川
露梨子	寄居町	寄居
大霧山	東秩父村	安戸
霧凧ヶ峰	大滝村	雲取山
飛龍山	大滝村	雲取山
竜喰山	大滝村	雲取山
龍ヶ谷	越生町	越生
竜ヶ谷山	毛呂山町	越生
竜泉寺	鴻巣市	東松山
美女木	戸田市	浦和

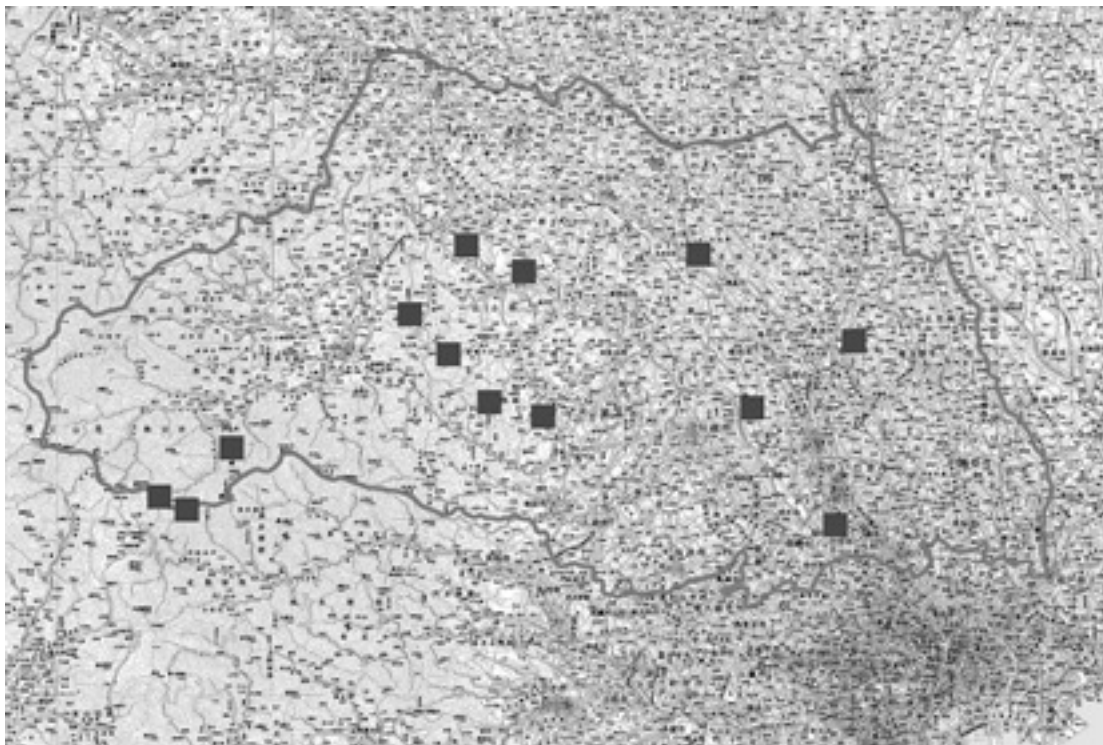


図3 雨地名の分布

の「竜」「龍」がつく地名が多く存在している。「竜」「龍」の付く地名は龍神が雨や水を司る神であることから、雨乞いなどの神事により地名がつけられる場合がある。「龍」「竜」が付く地名が多い場所は埼玉県内でも降水量の多い場所であることから、何かしらの雨神事からつけられたものかもしれない。

また「カサ(上サ)」は「傘」の意味があるのか、または「上の方」という意味の「カサ」ともとれる。

一覧表の2番目の「雨沼」という地名は隣の群馬県に

もあり上記のように確かに雨の多いところの意味があると思われる。「群馬の地名をたずねて」(群馬地名研究会編)によると、夏の長雨や豪雨の後に畑の中から地下水が湧き出し作物が水びたしという騒ぎになること、すなわち「雨が沼をつくる」意味に由来しているようである。その意味では気候地名であるばかりでなく水文地名でもあると言える。

また、戸田市の「美女木」も「ピジョ」はびしょびしょに濡れるの「ピシヨ」であり、「キ」は湿気の「キ」で、

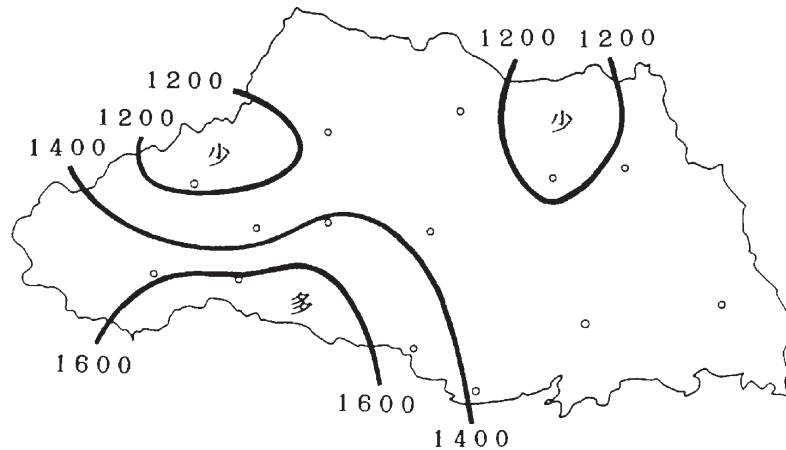


図4 埼玉県の年降水量分布図 (「埼玉県の気象百年」より)



図5 埼玉県の雨乞い

湿気の多い激しい湿地帯という説がある。その他にも、「ピジョ」は泥濘を意味し、低湿地をさすとも言われている。また、荒川の低地のため、水害にもたびたび悩まされたらしい。

「霧藻ヶ峰」は、大正11年に秩父宮殿下・同妃殿下が、この山に登り、針葉樹に繁茂するサルオガセ（霧藻、地衣植物）が霧に揺れているのを見て、霧藻ヶ峰と命名された。

「露梨子」は梨の木が自生していたことに由来があるらしい。

3 - 3 風に関する地名

風地名も12ヶ所とあまり多くはない。風地名は利根川などの川沿いで川風が強いと思われるところ（「風早

など）、「矢風」などの秩父山地のふもとの風風が吹くと思われるところ、秩父山地の谷沿い（「風布」など）の3地域に分布している。

中でも飯能市の「矢風」という地名は大変興味深い。風は冬の季節風に伴い吹く、寒冷で乾燥した強風を言うが、飯能市あたりが埼玉県内で特に風が強い地域でもなさそうである。

「矢風」あたりの地形を見ると、西側に小高い山があり、矢風はその山のちょうどふもとに存在している。冬の北西風（空っ風）が吹いた時に、この山から風風が吹いてくることによりつけられた地名とも考えられる。

なお、「矢」（ヤ）は「岩とか石」を意味する地名に多いということから、近くの「岩山」から吹き降りて来る風という説も考えられる。「風（おろし）」には崖の意も

表4 風地名

風地名	市町村名	地図名
風早	春日部市	野田市
風渡野	さいたま市見沼区	岩槻
矢嵐	飯能市	飯能
風影	飯能市	正丸峠
松風台	東松山市	川越北部
風目	松伏町	野田市
風洞	児玉町	本庄
破風屋	秩父市	皆野
破風山	皆野町	皆野
風殿	小鹿野町	長又
風布 (ふうつぷ)	長瀨町、寄居町	寄居

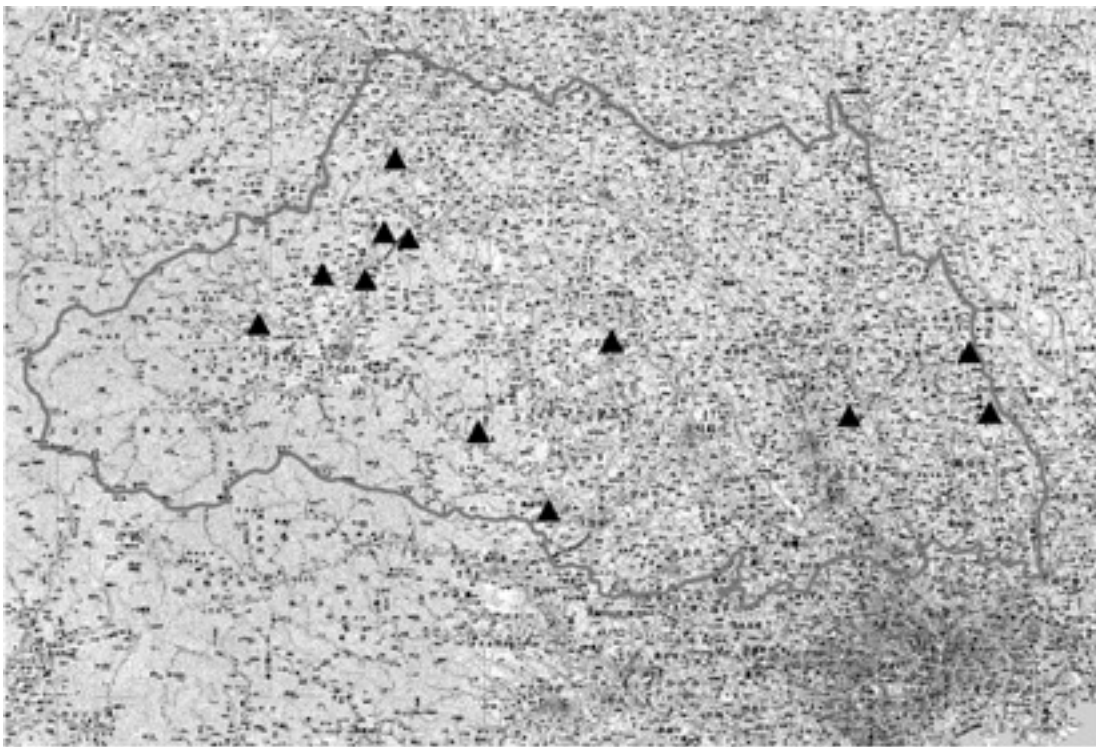


図6 風地名の分布図

あるという。

また、「風布」は「風夫」とも書き、アイヌ語の「プ」(山・倉)から、風の山という意味があるとされている。

「破風山」は、山頂が東破風と西破風の峰に分かれ、遠望するとその山容が切妻屋根(棟の両側に流れる二つの斜面からできている山形の屋根)に似ているところから、この名が付いたといわれている。



図7 矢嵐 (飯能市)

野の逃げ水」と呼ばれるほど乏水地域であったことから、雨が降っても「水が逃げる」という意味など、色々な説がある。この「逃水」の近くにも「水押」や「水野」など水に関する地名が狭山市の南部の乏水地域に存在していることも注目に値する。これらの地名については今後、「水文地名」の調査により詳細に考察をする予定である。



図9 逃水 (狭山市)

4. 考察 ~ 問題点など

日射日照地名に関して日向と日影 (陰) 地名が対になって (図を一例) 存在する箇所が多いことは前述の通りである。日向は南斜面のやや日当たりのいいところ、日陰は北斜面でやや日当たりの悪いところに位置しているのが一般的であるが、東斜面に「日向」地名があったり、西斜面に「日影」地名があったり、谷底に「日影」地名があり、興味あるケースもある。

埼玉県内の雨地名は必ずしも雨の少ない地域だけとは限らず、むしろ、「日向」地名の分布にほぼ類似している。

5. あとがき

最近、消防庁のホームページに「災害伝承情報データベース」なるものが登場した。これは、総務省消防庁が全国の都道府県、市町村を通じて収集した、昔からその土地に伝わる過去の災害に関する言い伝えや語り継がれ

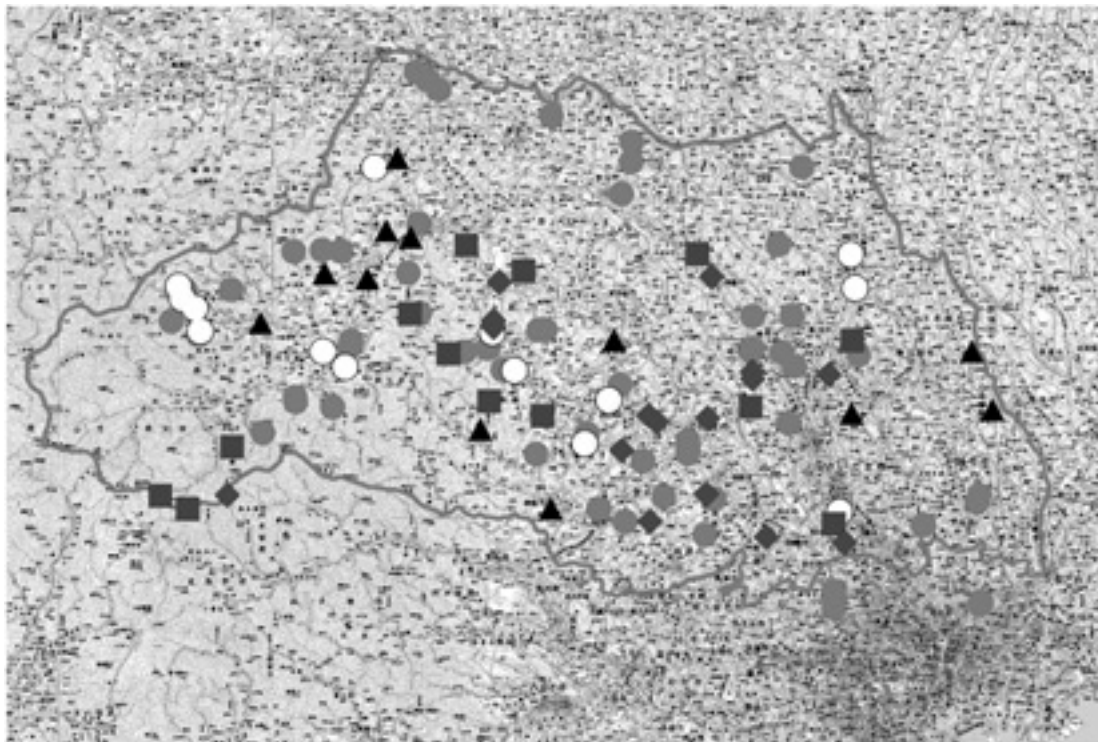


図10 地名の分布図

表6 埼玉県に伝わる災害に関する言い伝えなどの例

- ・中仙道を蛾が多く西へ飛んで行くのは大水の兆し
- ・熊谷市久下神社のおみこしをお祭りにかついだ年には、必ず土手が切れ大水が出ると言われている。
- ・秩父方面では、冬に山鳥がしきりに餌をあさっていると、大雪になる。
- ・干ばつに凶作なし
- ・県内の荒川・利根川・中川流域の低地には、多発する洪水に対応して、宅地の一角に盛土をして建物を建て、水害時に家族や家財・家畜が非難するための「水塚」(ミズカ)が多数作られている。また、避難用の舟(アゲブネ)も常備していた。
- ・上内間木・下内間木・田島などの地区(現朝霞市)では、屋敷の裏側や周囲に堀を掘り、その土を利用して屋敷全体に高さ2~3mの土盛をし、洪水による被害から家を守った。これをドモチといった。堀を掘ることで増水を緩和するなどの役にも立っていた。

(消防庁災害伝承情報データベース HP より)

る災害、個人・組織の取り組みなどがまとめられたもので、災害別・県別などで検索が可能となっている。

この中のいくつかは科学的根拠はあまりないものの、国も先人の残した知恵に注目し、それを生かし、災害への教訓や防災意識の高揚に役立てようと試み始めた。同じように地名からその土地の状態や災害の歴史などを推定することも重要と思われる。実際、大字・小字の撤廃や市町村合併などにより今は消えつつある大字や小字に荒川流域の地形や水害からつけられた地名が多く存在していたことが分かった(『熊谷の地名と旧跡』)。例えば、前述の「逃水」も小字地名である。その小字地名等が消えつつあるのは誠に残念なことである。

本稿では気候地名の分布と災害などの関係については関連付けられなかったが、今後は水文地名・地形地名・植物地名などの分布も調査し、そこから埼玉県を中心に荒川流域とその周辺に焦点を絞って水文災害・地形災害などのハザードマップとの関係を考察するための文献的調査も試みたい。

謝辞

本研究を進めるに際し、立正大学大学院地球環境科学研究科 ORC プロジェクト (I) の費用を使用させて頂きました。

引用・参考文献

- 池田末則・丹羽基二監修、『歴史と文化を探る日本地名ルーツ辞典』、創拓社、1992
- 小川 豊、『災害と植物地名』、山海堂、1987
- 「角川日本地名大辞典」編纂委員会、『角川日本地名大辞典11 埼玉県』、角川書店、1980
- 熊谷市立図書館、『熊谷の地名と旧跡 - 市内の文化財をめぐる 9 - 』、1992
- 熊谷地方気象台、『埼玉の気象百年』、(財)日本気象協会北関東センター、1996
- 熊谷測候所(熊谷気象台)、『埼玉県下の天気俚語』、1946
- 狭山市、『狭山市史(民族編)』、1985
- 狭山市、『狭山市史(地誌編)』、1989
- 消防庁災害伝承情報データベース、
<http://www.saigaidensho.soumu.go.jp/>
- 鶴ヶ島市教育委員会、『脚折の雨乞い』、朝日印刷工業㈱、2001
- 福岡義隆、『傾斜地の地名に関する気候学的考察』、中国・四国の農業気象(1)、1988.8
- 福岡義隆、『気候地名』分布の地図縮尺による違いについて』、日本地理学会1999年秋季学術大会発表要旨、1999
- 吉野正敏、『地名気候をさぐる』、学生社、1997
- 吉野正敏、『気候地名集成』、古今書院、2001
- 吉野正敏、『関東地方とその周辺地域の気候地名』、筑波の環境研究12、1989

Studies on Disaster Prone-area from Physiographic Place-names Around ARAKAWA Basin in SAITAMA Prefecture (1st report) Climatic Place-names in SAITAMA Prefecture

Miki MARUMOTO*, Yoshitaka FUKUOKA**

*Open Research Center, Part-time Researcher, Rishso University

**Faculty of Geo-environmental Science, Rishso University

Keywords: ARAKAWA Basin, Climatic Place-name, Meteorological Disasters